

# 高知大学 病院ニュース

〔編集〕  
高知大学病院ニュース  
編集委員会  
委員長 山本 哲也  
〔発行人〕  
高知大学医学部附属病院  
病院長 杉浦 哲朗

## 附属病院の経営状況について

病院長 杉浦 哲朗

**職** 員の皆さまには、病院の経営改善のため日々努力をしていただき感謝申し上げます。10月に開催しました経営状況説明会の内容を含め、現在の附属病院の経営状況についてお知らせします。

**病** 院再開発の総事業費は約185億円で、その内の借入金は約161億円です。平成24年度の収支比率や病床稼働率から試算すると平成28年度から赤字決算になると予想され、これを回避するため病床稼働率85%、入院1日平均単価65,000円、外来1日平均患者数1,050人、外来1日平均単価17,400円を平成28年度に向けた目標に定めました。

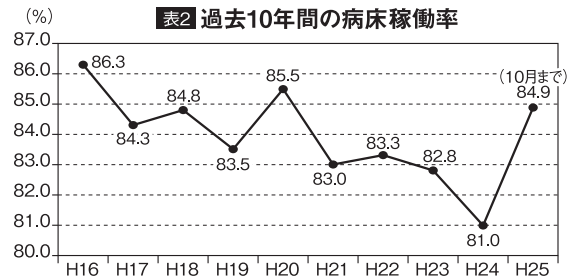
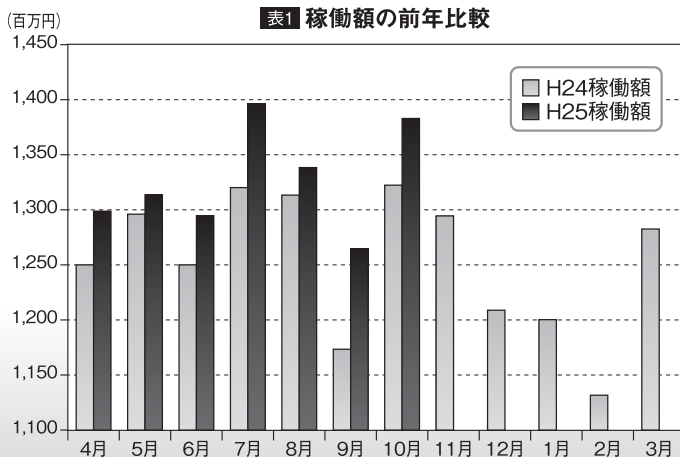
**稼** 働額の前年比較(表1)を見ると、今年の4月以降全ての月で前年度よりも増加しており、10月までの合計で約3.3億円の増加となりました。増加の主な要因は、病床稼働率(表2)の改善です。また、6月より実施している各診療科の医局会に診療情報管理士や医事課職員が参加してDPCコーディングや診療請求の注意事項等について説明する「DPC勉強会」の取り組みによる成果も考えられます。診療単価については10月までの集計で平成25年度の目標を達成しています(表3)。収入については順調に伸びており、平成25年度の目標に照らせば現状の維持が望めます。

**今** 年度の取り組みとしては、4月に医師の負担軽減として薬剤師やMSWを増員し、10月からは診断書作

成支援(事務が診断書の下書きを行う)を開始しました。また、経費削減のため診療材料の品目見直し(統一化)やコンサルティング会社と協同して購入価格の見直しなどを行っています。皆さまにおかれましても院外処方せん発行率の増加、後発医薬品の促進に協力をお願いします。

**平** 成26年度保険改正案として、機能評価係数Iに大きく影響する「特定機能病院」認定の条件として英文論文100件以上(基礎講座は対象外)、後発医薬品の使用促進、薬剤師や管理栄養士の病棟配置促進、看護必要度のチェック項目の見直し等が盛り込まれる予定です。さらに大学病院の外来を紹介患者中心とし、紹介状のない初診患者さんに対する初診料大幅アップが議論されています。保険改正の最終決定は平成26年2月頃になりますが、新たな情報が入り次第お知らせしたいと考えています。

**今** 年の年末年始は12月28日から1月5日までの9連休となり、病院収入が大きく減少することが予測されます。皆さまのご協力で平成26年仕事始め(1月6日)の早い段階から病床稼働率や手術件数が目標値以上で保持されることを期待しております。早いもので今年も残すところ僅かとなりました。来たる年には新病棟の完成も控えております。職員皆さまの変わらぬご理解、ご支援をお願い申し上げるとともに、皆さまにとって良き年となりますよう祈りいたします。



**表3 診療単価について** (円)

	H24年度実績	H25年度目標	H25年度実績(10月まで)	H28年度目標
入院単価	59,692	60,651	60,780	65,000
外来単価	16,940	17,000	17,234	17,400

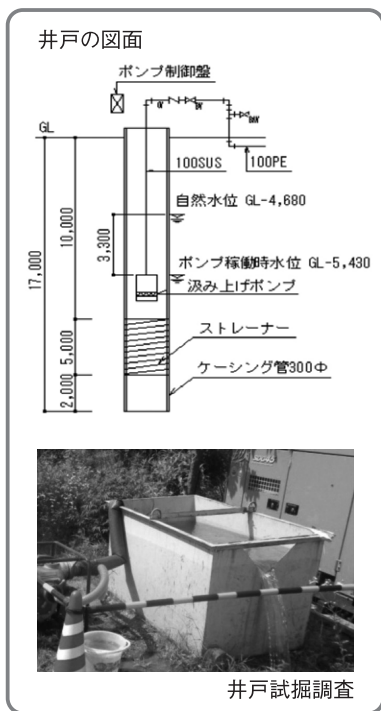
# 災害に備えた水の確保

施設管理課

## 井戸設置

医学部では、日頃より井戸水を雑用水(トイレの洗浄水・消火用水)として利用していますが、既設井戸の老朽化に伴う水量不足の懸念と、既設の井戸と井戸から貯水槽までの送水管、地下式コンクリート製貯水槽が設置後34年経過していることから、南海地震の発生により破損して給水不能となることが想定されます。

そこで生活用水の水源を確保するため、新たな井戸の掘削、耐震性の高い送水管の敷設、地上式受水槽(300㎡)の整備を進めています。現在は井戸の試掘調査を終え、毎分300ℓの汲み上げが可能であることを確認しています。まもなく工事を開始し、平成26年度内に完成予定です。南海地震の際に南国市水道局からの給水が遮断した場合は、井戸水を災害対策用造水機を通して上水にし、患者さんの飲料水や治療水として使用します。人工透析が必要な患者さんや血液浄化が必要な被災者の方には治療水は特に必要であり、病院(地域災害拠点病院)の事業を継続するためにも水(井戸)は重要な要素となっています。

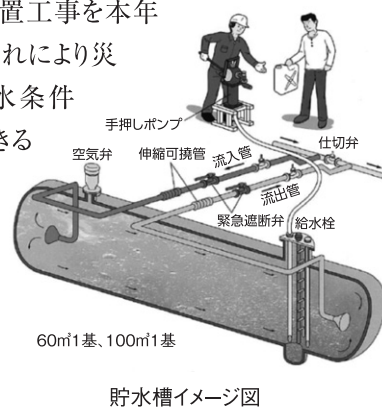


す。3日を超える断水、災害時予測使用量をを超える使用量の場合は井戸水を使用します。ただし井戸水を上水に変換するには災害対策用造水機を通す必要があります、造水は必要量の30%を計画しています。

## 上水耐震性貯水槽の設置

地震等により給水が遮断した場合に備え、上水の備蓄水槽として使用する耐震性貯水槽60㎡1基と100㎡1基を整備します。その設置工事を本年に着工する予定で、これにより災害時には3日分(節水条件付)の上水が貯水できる

ことになります。この耐震性貯水槽の水は常時入れ換え使用していないと劣化するので、通常時にも使用します。



## 災害時給水設備の電源確保

南海地震等災害時の停電対策として自家発電機を設置しています。自家発電機の運転継続可能日数は7日間で、給水ポンプ類、井戸水汲み上げポンプは自家発電電源を使用して運転ができます。井戸水汲み上げポンプが何らかの要因で運転できない場合は、手押しポンプで井戸水を汲み上げます。



## 災害時の給水使用量の予測

災害時の水使用の特殊条件として、①入院患者さんは通常時の2倍≒1,200床、外来患者さんは通常時の5倍≒5,350人を加味する、②研究棟で実験に使用する給水を停止する、③医学部全体での徹底した節水を条件に給水使用量を算定すると上水120㎡/日、雑用水170㎡/日が必要となる、の3点が挙げられます。この予測水量3日分の貯水槽・受水槽(既設水槽を含める)を整備しま

### ◆◆◆◆◆ 施設管理課からお知らせ ◆◆◆◆◆

病院再開のホームページを開設しました。

<http://www.kochi-ms.ac.jp/~kmsmr/index.html>

新病棟の工事進捗状況や、病室モデルルームのアンケート結果などを掲載していますのでご覧下さい。附属病院トップページの中程にリンクがあります。



## 新任の挨拶



医学部・病院事務部長

にしむら とよひで  
西村 仁秀

平成25年10月1日付けで、法人企画課長から医学部・病院事務部長に昇任になりました西村です。私は昭和54年4月に高知医科大学に採用され、平成15年10月の高知大学との統合まで高知医科大学でお世話になりました。その後、高知高専、鳴門教育大学、和歌山大学、平成22年4月から高知大学で勤務しております。

まず、法人化になった当時、某大学の理事が言った言葉があります。「3無主義はダメですよ」。3無とは、「金が無い」、「前例が無い」、「規則が無い」と記憶しています。「金が無い」だったら金をつくればよい、「前例が無い」だったら前例にしたらよい、「規則が無い」だったら規則をつくればよいと、昔の慣習にとらわれず、まったく新しい発想で物事に取組んでいかないと法人化になった意味はないですと。その通りだと思います。現実的には難しいものもありますが、「本当に出来ないのか?」、「どうすれば出来るのか」を私を含め職場のみんなで前向きに物事をよく考えて行動し、今以上によい職場環境を作っていきますよ。

次に、現在大学を取り巻く環境は大きく変化しています。「大学改革実行プラン」(平成24年6月、文部科学省)が公表されミッションの再定義が求められています。これは、「社会情勢、時代等の全体の変化に伴い、各大学において現在の役割を明らかにし、強み・特色を打ち出していく必要がある。また、将来に向けてのビジョンをしっかりと持ち、具体的な機能を明らかにしていくことが、社会から求められている。」このような背景から医学部(医学系分野)においては、「高知大学の理念及び医学部の理念並びに建学の精神に基づき、地域特性に根ざした医学・医療の推進に寄与し、国際社会にも貢献しうる優れた医師・医学研究者等を養成する。」等を掲げています。また、「国立大学改革プラン」(平成25年11月、文部科学省)が公表され、各大学の機能強化の方向性などが示されました。今一度、役割・使命・機能を教職員全員が再認識し、医学部・附属病院の教育・研究、診療、社会貢献等の機能強化を図り、その機能が十分発揮できるよう取組んでいきたいと考えております。

最後に、新米の部長ですが、色々な課題に取組み高知大学医学部・附属病院の発展のために尽力いたしますので、ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。



医学部・病院事務部次長  
(会計課長 兼務)

なかじま かずひろ  
中島 一浩

平成25年10月1日から、医学部・病院事務部次長を拝命し、会計課長を兼務することになりました中島です。愛媛県出身で、香川県に家族がいます。

私はこの4月に高知大学の財務部財務課長として異動してきましたが、高知大学は2度目の赴任となります。平成17年に、医学部・病院事務部の経営企画課長として赴任したのが最初でした。3ヶ月後には事務組織再編で、新設の地域連携課長として国際・地域連携センターへ異動しましたので、岡豊キャンパスでの勤務は短いものでした。あれから8年、香川大学(医学部患者サービス課長)、島根大学(医学部会計課長)を経験して帰ってきました。また、こうして高知大学の医学部で勤務できる機会をいただき、大変光栄に思っています。(今回は、知っている方もたくさんいます。)

今、病院再開発という大きなプロジェクトでは第1ステージであり、まずは来年には新病棟が完成するという「夢」があります。しかし、簡単に達成できるものではなく、これから職員が一丸となって乗り越えていかなくてはならない事がたくさんあると思いますが、ぜひ力を合わせて成功させていきましょう。医療で問われるチームの力を発揮するときです。私もチームの一員として、全力でがんばっていききたいと思います。

計画を達成していくためには、安定した病院運営が必要であり、財源の確保が重要となってきます。これから、再開発のステージが進み完成までの間、病院の環境が変化していきますが、収入の獲得と効率的な経費の執行にご協力をお願いします。

私は前赴任した時から、高知が大好きになりました。私の高知のイメージは、「青い空とまぶしい太陽」であり、「土佐弁」であり「明るい人」です。そんな高知で、地域に寄り添い愛され続ける「大学病院」を、皆さんと共に目指していきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

また休日は、できる限り家族のいる高松(香川)にも帰ってうどんも食べたいと思っておりますので、そこもよろしくお願いいたします。

## 骨髄バンク事業への貢献に対する感謝状について

総務企画課



このたび、公益財団法人 骨髄移植推進財団から、附属病院へ骨髄バンク事業への貢献に対する感謝状が贈られました。

この感謝状は、同財団が平成22年度から、非血縁者間のドナーコーディネートにおいて特に貢献度が高い採取認定施設および調整医師に対して、地区事務局および地区代表協力医師の推薦に基づき贈呈しているものです。

本院は同財団との業務委託契約に基づき、骨髄バンクに登録した骨髄提供希望者に対して数多くのドナー適格性確認及び骨髄採取を行ってきており、今回感謝状の贈呈を受けることとなりました。

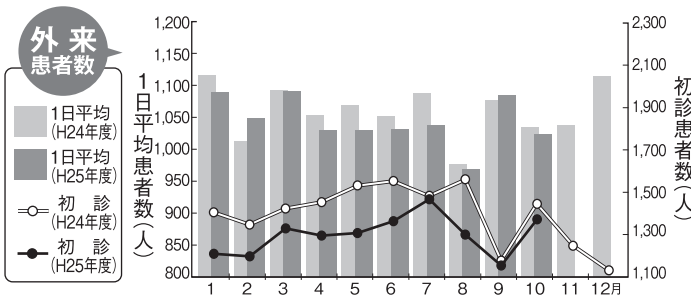
## 病院広報紙に関するアンケートご協力のお礼

病院ニュース編集委員会 委員長 山本 哲也

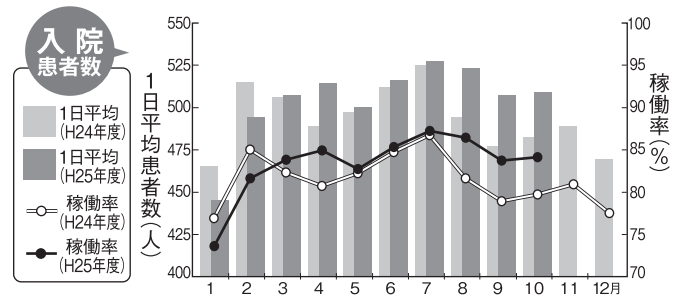
この度は病院広報紙に関するアンケートにご協力を頂きまして誠に有難うございました。おかげ様で、900名以上の方から貴重なご意見を伺うことができました。皆様方のご意見を参考にさせて頂き、これからもより多くの方に満足して頂ける広報誌の作成に尽力して参ります。



## 診療状況



1日平均患者数は9月と10月ともに前年同月と同等。初診患者は1月から連続して前年を下回っている。



患者数・稼働率共に、3月から連続して前年同月に比べて高くなった。特に、8月に降は連続して4%以上増加した。

## 編集後記

本年度より、病院ニュース編集委員を務めさせて頂いております。病院ニュースを読む立場から、作る立場になったことで、日常の視点も少し変化してきたように思います。普段何気なく読む新聞や雑誌の記事でも、文章の構成、文字の大きさ、写真の配置までじっくりと見るようになりました。とは申しまして、もともと文章を考えることは苦手な時間がかかってしまうのは相変わらずです。最近、指導した数名の医学部生に学会

参加のレポートを書いてもらったのですが、その文章力の高さには驚かされました。LINEやTwitter、Facebookなど複数のSNSを使いこなす現代の若者は、自身の意見を言葉にすることに慣れているのでしょうか?その一方で、「SNS疲れ」と言われるようにWebサイト上での人間関係などに疲弊している人も増えているようですが...。私はSNSとは無縁の生活を送っていますが、編集委員長、委員の皆様と共に、わかりやすく、思いが伝わるような病院ニュースを作っていきたいと思っております。(文責:河野 崇)